



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四〇三号）

秋分 しゅうぶん
九月二十三日

宮忠の『KIYOME』

「秋澄む」「空澄む」という季語があります。大陸からの移動性高気圧に覆われて、空気が澄み、空も山も景色がくっきり見えるということ、秋という季節をみごとに表しています。

おかげ横丁で神棚などがずらりと並ぶ店が、外宮前で八十年以上にわたり神棚や神祭具造りをしている「宮忠」のおかげ横丁店。ここで、「浄める」という意味を持つ「KIYOME（きよめ）」という新しいシリーズがお目見えしました。浄化やお祓いをテーマにした天然石のアクセサリーなどで、神棚に使用する最高品質の木曾檜を用いた容器などと組み合わせた点が特徴です。

「KIYOME」シリーズは用途別に三種類。「持ち運べるKIYOME」は、天然塩を薄いカード型やリップステック型の木曾檜の器に入れて運べるというもの。塩は鳥羽市国崎の海水を煮詰め、天日干しした極上のもので、これを伊勢和紙などで包み、木曾檜の器に収め、麻袋に入れて持ち運びができます。これまでも持ち塩セットがありました、それが進化した一品です。

そして、「置けるKIYOME」は、美しい水晶玉やささまざまな形の水晶片を木曾檜の台座に置いて、部屋に飾るもの。さらに「身につけるKIYOME」は身につけやすいブレスレットで、小さな木曾檜のビーズやアメジストの飾りのほか、麻緒（麻紐）のタッセルや小さな水晶も付くなど、細やかな作りがなされているのにこだわりを感じます。

「お守りのように日常でお使いいただくと、心を清らかに整えることができます」と担当者。浄化というテーマでいいいに作られた一品一品に見入りました。これも、神棚造りで培った技と精神に通じているのでしょう。澄んだ秋の空気の中、心も身も浄める品に触れて、「気持ち澄む」心地になりました。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第29回 来る福招き猫まつり

9月29日は、「来る福(くるふく)」と縁起良く読めることから「招き猫の日」です。
今年、29(ふく)回目の開催となり、「来る福招き猫まつり」にとっては例年以上に福が重なる節目の年です。

福がいっぱいの「来る福招き猫まつり」にぜひお越しください。

と き／9月16日(土)～9月29日(金) 9:29～17:29 (催しにより異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

※主催者側の判断により、一部内容に変更が生じる場合がございます。

来る福展覧会

12名の招き猫作家さんのミニ個展を各店でお楽しみください。

【出店予定作家】

杉香子(孫の屋三太)／春日粧(神路屋)／小出信久(つぼや)／小嶋サチコ(かみなりや)／
小紅(おみやげや)／松風直美(徳力富吉郎版画館)／すみ田理恵(晩酌屋久兵衛)／
東早苗(他抜きだらん亭)／ひがしりょうこ(くつろぎや)／平林義教・利依子(しろがね屋)／
吉田一也(吉兆招福亭)／渡辺志野(晩酌屋久兵衛)

郷土玩具招き猫展

各地で伝統的に作られている郷土玩具の招き猫を集めました。

現在も受け継がれているものから、入手が困難なもの、来る福招き猫まつり限定で販売をする招き猫も
ございます。

場 所／五十鈴茶屋 本店向かい

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 日本人の食文化 秋編

今日は旧暦の十五夜、元々は月を神と崇めて捧げものをし、豊作を祈るものだったようです。お供え物は主食だった里芋でしたが、次第に米に取って代われ月見団子になりました。一方、月そのものを愛で、詩歌管弦を楽しむ観月会も平安時代から行われていましたので、次第に融合してお月見は文字通り美しい月を楽しむ行事になっていきました。昔ながらの月祭りが残っているのは十三夜です。豆名月、栗名月と呼ばれ、秋の収穫を祝う行事です。月一つとっても変遷をくりかえしてきた日本人の食、今回は秋にちなんだお話です。

と き／9月29日(金) 13:30～15:00

講 師／神崎 宣武 (民俗学者・五十鈴塾塾長)

参加費／一般 1,700円 会員 1,200円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はつもみじ
初紅葉

伊勢の野山も秋の装いになり、木々の葉が美しく彩り始めました。
川面の様子を寒天で表し、伊勢からの秋便りを届けます。

はつかり
初雁

「初雁」とは、その年の秋、初めて姿を見せた渡り雁のことです。
山芋を使った薯蕷生地で白餡を包み、雁の飛ぶ姿を表しました。

つきよ
月夜

毎夜少しずつ姿を変える月には、三日月や満月など様々な呼び名があります。
こし餡の蒸し羊羹に栗を仕込み、美しい秋の夜空を表しました。